



唐泉山を仰ぎみて

嬉野市立塩田中学校
「学校だより No13」
令和8年3月17日
文責：校長 宮崎武司

学校教育目標「心豊かにともに伸びる」

～ 仲間とともに伸びる 教師とともに伸びる 保護者・地域とともに伸びる ～

【修了式】

本日、令和7年度の修了式を行いました。この1年間を振り返りますと、生徒一人一人が、様々な場面で着実に成長してきたことを実感しています。今回の修了式では、卒業式において卒業生に向けて話した内容とあせて、来年度に向けて期待することについて話しました。その概略を紹介します。

この1年間、様々な場面で成長する機会を経験してきました。人は年齢を重ねることで成長することもあります。学校で仲間とともに生活し、学ぶことによっても大きく成長します。

学校は、勉強する場所であると同時に、学校行事などを体験・経験しながら、多くのことを学ぶ場です。特に、たくさんの人と関わる中でしか得られない学びは、皆さんが成長するうえでとても大切なものです。

来年度、皆さんがどのような学びを重ね、どのように成長していくのかを楽しみにしています。1年後の自分はどうなっていたいのか、どのような人になりたいのかをぜひイメージしてください。そのイメージが目標となり、皆さんの成長を後押ししてくれます。

卒業式では、次の言葉を紹介しました。

「一隅を照らす」

「一隅」とは、社会の片隅、目立たない場所という意味です。

「一隅を照らす」には、次のような意味が込められています。

○「みんなが気づかないような片隅で社会を照らす人こそが、国の宝である」

○「一人一人が、自分のいる場所を自ら照らせば、それが積み重なり、この世全体が照らされる、明るくなる」

○「どんな場所にいても、できることを精一杯やるのが、やがて周りを明るくする」
これは、誰かのために、周囲の人のために、自分にできることを見つけて実行するということです。そのような行動は、周囲の人の心を明るくします。自分のことだけを考えるのではなく、周囲のことにも目を向けて考えて行動することが大切です。

自分にできることとは、自分の良さを生かすこと。

周りのことを考えるとは、思いやりの心をもつことです。

一人一人がそのような行動を積み重ねていくことで、塩田中学校は、みんなが安心して過ごせる、そして安心して学べる学校になっていくのではないかと思います。

来年度の皆さんの行動と成長を期待しています。

【保護者の皆様へ】

本日で令和7年度が修了しました。この一年間の保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。来年度、さらにお子さまたちが活躍し成長できるように、職員一同で指導・支援していきます。これまで同様、ご理解とご協力をお願いします。

【嬉野市青少年弁論大会】

嬉野市青少年弁論大会で最優秀賞の表彰を受けた生徒の作文を紹介します。

「頼る勇気が自信に変わる」 二年生

みなさんは、「誰かを頼る」ということができますか。困ったとき、悩んだときに素直に人を頼るということは難しいことだと思います。「人を頼る」ということは弱さだと思っていた私は、何でも一人でやらなければいけない、一人で乗り越えていくべきだという考えに囚われていました。

そんな私の考えを大きく変えるきっかけとなったのが「生徒会長選挙」でした。私は、責任感の強い性格で、任せられたことは最後まで完璧にやり遂げたいと思ってきました。その一方で、困っても「助けて欲しい」が言えず、すべてを一人で抱え込んでしまい苦しくなることも多々ありました。生徒会長に立候補した時も「完璧にやらなければ」という思いに縛られてガチガチでした。演説の内容、公約の一つ一つの言葉に「妥協してはいけない。」そう思えば思うほど、プレッシャーは大きくなっていきました。原稿を書いても消して、何度書き直しても納得できませんでした。

「こんな自分が生徒会長に立候補していいのだろうか。」そんな不安が何度も頭をよぎりました。気づけば肩に力が入り、どんどん余裕がなくなっていました。

そんな時、担任の先生が声をかけて下さいました。「完璧じゃなくていい。本気でやれば、きっと思いは伝わるよ。」この言葉を聞いた瞬間、張り詰めていた心が少し軽くなった気がしました。私はその日から、少しずつ周りを頼ることを意識しました。原稿に対するアドバイスももらったり先生に相談したりしました。すると、一人では思いつかないような案や視点に気付くことができました。友達にアドバイスをもらい頼ることで、準備は順調に進み、演説用の原稿もかなりいいものになりました。

立会演説会の日は、完璧でない部分があったかもしれませんが、クラスのみんなや先生方の支えのおかげで、自分の思いを誠心誠意、落ち着いて伝えることができたことと自負しています。私はこのとき、「自分の考えに自信を持っていい」という感覚を肌で感じました。それは、周りの人たちに頼ったことで得た自信でした。また、体育館で感じた応援が、私の大きな力となりました。

そして投票の結果、生徒会長として私の名前が呼ばれた瞬間、うれしさと同時に、今まで支えてくれた人たちの顔が頭に浮かび、胸がいっぱいになりました。初めて、これまで全力で頑張ってきた自分が認められたように感じました。

生徒会長選挙を通して、私は大きく成長したと思っています。「人に頼ること」は決してだめなことではありませんでした。自分一人では気付くことができなかった可能性を広げ、前に進むための力になりました。

これまでの私は、「一人で頑張る」を当たり前にしてきました。しかし、「一緒に頑張る」ということができる自分になれたことに喜びを感じています。

この経験を通して学んだことを、これからの糧にしていきたいです。勇気を出して周りを頼ることで、きっと新しい発見があり、成長につながっていくと信じています。

今、もし一人で悩みを抱え、誰にも言えずにいる人がいたら、私は伝えたいことがあります。「助けて」ということは、決して「弱さ」ではありません。自分を救うための勇気ある行動です。人を頼ることで初めて見る景色があって、誰かと一緒に悩み考えることが心の支えになります。完璧である必要はありません。本気で向き合えば思いは必ず誰かに伝わります。

生徒会長選挙で学んだことは、この先の人生で絶対に忘れることのない大切な宝物となりました。これからも、誰かと共に支え合いながら日々を輝かしいものにしていきたいと思っています。